

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 新居浜市立泉川小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒792-0815
愛媛県新居浜市岸の上町一丁目13番68号

E-mail izue-ad@esnet.ed.jp
Website http://izumigawa-e.esnet.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子 292名 女子 254名 合計 546名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

<テーマ> 進めよう!エコ・アクション

～地球環境を守るために、明るい展望をもって

気付き、考え、実行する児童の育成～

<実践の概要>

テーマのもと、総合的な学習の時間や生活科の時間を中心に、今日よりすてきな地域〔泉川⇄新居浜⇄愛媛⇄日本⇄世界〕の輝く未来を創造するために『気付き・考え・実行する』体験活動を行った。そして、五感を働かせたさまざまな体験活動を通して思考力・判断力・表現力などの生きる力を育成してきた。

実践に当たっては、学校だよりや学校ホームページで、子どもたちの活動の様子を随時、家庭・地域に情報提供した。そして、家庭・地域との連携・協力による、泉川地域をあげての持続可能な開発のための教育となるように努めている。

<目的>

今日よりすてきな未来を見つめ、輝く未来を創造するために、自ら五感を働かせることを通して子どもたち一人一人に『気付き・考え・実行』することのできる能力や態度を育成する。

<実践内容>

1 各学年の取組

各学年とも、まずは身近な環境に意欲的にかかわり、体験活動を通して、よりよい環境づくりや環境保全に配慮した望ましい行動がとれる児童を育成している。

1年生「しぜんとなかよしになろう！」

2年生「しぜんともだちになろう！」

3年生「ふるさと泉川の博士になろう！」

4年生「泉川かんきょうたんけんたいになろう！」

5年生「空気、土、水を見つめてみよう！」

6年生「輝く未来に向けて実行しよう！」

ひまわり組・すみれ1・2組「野菜を育てよう！調理しよう！」

2 全校的な取組

○ ESD パスポート活動（4・5・6年生）

○ エコ週間

○ リサイクル回収

○ ペットボトルキャップアート



① の写真（キャプション）



① の写真（キャプション）



② の写真（キャプション）



② の写真（キャプション）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input checked="" type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<ul style="list-style-type: none">● ごみはいかせる！へらせる①～③ (2012年、岩崎書店)● ごみゼロ大作戦！めざせ！Rの達人①～⑥ (2017年、ポプラ社)● よく知って、減らそう！ゴミの大研究 (2015年、PHP)● 池上彰のニュースに登場する世界の環境問題④ゴミ (2010年、さえら書房)● 池上彰のニュースに登場する世界の環境問題②水 (2010年、さえら書房)● 地球のくらしの絵本③水をめぐらす知恵 (2016年、農文協)● 地下のひみつ②上下水道・電気・ガス・通信網 (2014年、あすなる書房)● もったいない生活大事典1～7 (2008年、学習研究社)● 実践！体験！みんなでストップ温暖化①～⑤ (2011年、学研教育出版)● ゴミにすむ魚たち (2011年、講談社)
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

学校行事や総合的な学習の時間をはじめ、各教科、特別活動の教育課程に位置付け、活動に取り組んでいる。全学年で「ESDカレンダー」を作成し、年間を通じて計画的に実践している。また、ESDの部会を設け学期ごとに実践を振り返り、活動の見直しを図るとともに校内研修で共通理解を図り、充実した活動をめざしている。さらに、年度末に見直しを行い、次年度の計画を立てている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

全学年で「ESDカレンダー」を作成し、教育課程に位置付け、活動を横断的・総合的に捉えるとともに各学年において系統性をもたせている。計画、実践、評価、改善のPDCAサイクルを確立し、校内研修で共通理解を図っている。また、地域や外部団体との連携を積極的に図り、活動の充実をめざしている。さらに活動の記録と資料の蓄積、引継ぎを確実にを行い、活動が円滑に継続して行われるように努めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

評価は、活動ごとのアンケートによる自己評価と公開した活動ごとに感想や意見を記入してもらう形での外部評価を行っている。また、学校運営協議会において活動に関する意見・感想をもらい、よりよい活動をめざしている。

活動の成果としては、公民館や関係団体と連携して、地域の人々との交流を深めながら、環境学習を進め、地域を大切にすることを育てることができたことが挙げられる。

課題としては、新しく取り入れた活動の改善と継続が挙げられる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校ホームページに随時内容を発信している。他に学校便りでも ESD の記事を取り上げて発信している。各教室に学習成果物を掲示しているほか、校内では学校図書館に ESD コーナーを設けており、継続して活動内容を発信している。また、年度はじめの P T A 総会で取組を紹介したり、市教育委員会が作成している ESD 通信を印刷し、全校児童の家庭に配布したりしている。

このようなことから ESD が地域に浸透しつつあり、活動の感想を地域関係者から聞くことが多くなった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

地域や関係団体と協働・交流を積極的に行っている。環境美化活動においては地域住民と協働して取り組んでいる。ゴミひろいや、花植え、除草等、一緒によい汗をかきながら取り組んでいる。また、ネイチャー・ゲームや環境教育出前授業等では市内の環境推進団体の方がゲストティーチャーとして来校し、環境学習を実施してくれた。

田植え、稲刈り、そして、収穫したもち米を使った餅つき、しめ縄づくりと続く一連の活動には、公民館を中心に各種団体が支援、協力してくれている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

市教育委員会が主催する ESD フェスティバルに教員、児童が積極的に参加し、他校の実践を知り、参考にするとともに、自校のテーマや実態に照らし合わせて取組の改善を図っている。

また、市教育委員会が主催する研修会において、先進校の取組や実践、各種資料等を参考にし、改善に役立てるとともに市内の各学校の取組をワークショップ形式で発表し合い、交流し、幅広い活動となるように努めている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

テーマが「進めよう！エコ・アクション～地球環境を守るために、明るい展望をもって気付き、考え、実行する児童の育成～」であり、ESDの活動を通して、児童が主体的に事象を捉え、考え、実行することが多く見られるようになった。

その例として、地域が取り組んでいる環境美化活動（毎月1回「大好き泉川の日」として地域住民や小・中学生がゴミひろいや花植え、除草等の環境美化活動に取り組んでいる。）に積極的に参加する児童が増えてきたことが挙げられる。児童が自ら進んで地域と協働し、地域とのつながり、人とのつながりが強くなったと感じられる。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

引き続き、「進めよう！エコ・アクション～地球環境を守るために、明るい展望をもって気付き、考え、実行する児童の育成～」をテーマとして今日よりすてきな未来を見つめ、輝く未来を創造するために、自ら五感を働かせることを通して子どもたち一人一人に『気付き・考え・実行』することのできる能力や態度を育成していきたい。

今後も「ESDカレンダー」の改善を図りながら、教育課程に位置付け、活動を横断的・総合的に捉えるとともに各学年において系統性をもたせていきたい。また、計画、実践、評価、改善のPDCAサイクルを通して活動を充実させたい。

また、コミュニティ・スクール推進校として学校運営協議会とともに公民館や関係団体と連携して活動の深まりと広がりをめざしたい。地域と協働し、地域とのつながり、人とのつながりをさらに強めながらエコ・アクションを進めたい。